

## サブ会場(3月1日) 講演1

国立研究開発法人情報通信研究機構ナショナルサイバートレーニングセンター 主任研究員



佐藤公信氏により「そのサービスとめっちゃいいんですか?～機密性、完全性、可用性のバランス～」というテーマで講演が行われた。日々増えていく機密情報への脅威に対して、一人一人がセキュリティについて考え、知識を伝えていくことが大切だと述べられた。

## サブ会場(3月1日) 講演2

株式会社インターネットイニシアティブ ネットワーク本部アプリケーションサービス部担当



部長 櫻庭秀次氏により「送信ドメイン認証技術 DMARC によるなりすましメール対策」というテーマで講演が行われた。DMARC は導入が簡単なメールの認証技術で、SPF、DKIM と共に導入することで、なりすましメールの被害を抑えることができる。また、送信側が認証失敗時の振る舞いを決められ、設定の見直しに認証

状況のレポート受信などができる。まだ、日本では普及率が低いですが、なりすましメール対策に大きな役割を果たせると話された。

## サブ会場(3月2日) 講演1

トレンドマイクロ株式会社 業種営業推進グループ グループ長 ディレクター 東定 治氏



により「最新のセキュリティ脅威と業種別セキュリティ関連動向」というテーマで講演が行われた。最新のセキュリティ動向についてランサムウェアの WannaCry や平昌五輪開会式に影響したとされるマルウェアをふまえて紹介され、メールでなりすましを行い不正送金させるビジネスメール詐欺の対策として送金処理に関する社内

整備や従業員に対する教育などが有効であると述べられた。

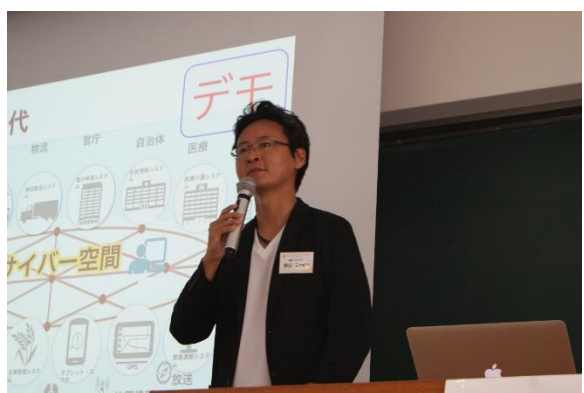
## サブ会場(3月2日) 講演2



警察庁 生活安全局 情報技術犯罪対策課官民連携推進官 高尾 健一氏により「サイバー犯罪の現状と対策」というテーマで講演が行われた。サイバー犯罪の相談数は年々増加している。しかし、情報を捌ききれず検挙数は頭打ちになっている。ただし、人員の補充、教育には金銭、時間などの問題がある。そこで、市民と連携して、

サイバー犯罪を検挙する一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター (JC3) などのサイトを通じた官民連携が有効だと話された。

## サブ会場(3月2日) 講演3



富士通株式会社 セキュリティマイスター 佳山 こうせつ氏により「つながる時代のモノヅクリ×セキュリティ～サイバー脅威の正しい怖がり方～」というテーマで講演が行われた。今まで起きたサイバー脅威の事案例やその原因、多様化しているサイバー攻撃、SNS で2段階認証をしていないことによるアカウント乗っ取りなど、

ネットワークでつながる時代において、セキュリティについて一人ひとりが考えなければならぬと話された。

## サブ会場(3月2日) 講演4



愛媛県警察本部生活安全部 生活環境課 サイバー犯罪対策室 サイバー犯罪捜査課長補佐 杉野 昇氏により「県内のサイバー犯罪の現状と対策」というテーマで講演が行われた。県内のサイバー犯罪の検挙数は、被害相談数に追いついていない。その為、官民連携が必要だと話された。また、主に偽サイトや詐欺サイト、

不正アクセスなどの被害が多い。そこで、不正アクセスの対策として、二段階認証、ワンタイムパスワードの徹底、メール、送付ファイルが正規なものかを確認するようと呼びかけた。

## サブ会場(3月2日) 講演5



株式会社 TwoFive 開発マネジャー 加瀬正樹氏により「送信ドメイン認証技術 DMARC の導入とその利用方法」というテーマで講演が行われた。昨今のフィッシングメールの実際として2017年でもメールを悪用した被害が目撃された。その対策として、送信元の IP が正しいかどうか判断する SPF、電子署名の正しさを

確認する DKIM、なりすましメールかどうかを認証し、認証結果を管理者に集計レポートする技術である DMARC、ドメインレピュテーションなどを導入することが大切であると話された。

## 今年の SecDogo 担当

井上智義、亀岡景太（愛媛大学工学部情報工学科4年）、武智聡平（愛媛大学大学院理工学研究科情報工学専攻1年）、大谷直高、大野勇人、小椋亮（河原電子ビジネス専門学校1年）、甲斐博（愛媛大学）、曾根直人（鳴門教育大学）

以上の8名で担当しました。

有難うございました。